

第27号

占 春 会 報

<編集・発行> 大阪府八尾市千塚2丁目96番地 大阪府立清友高等学校占春会事務局
 TEL (0729) 41-3456 FAX (0729) 41-8739 (〒581)
 <印刷・製本> 東大阪市森河内西1-6-12-4F 株式会社リ ス ト (〒577)

一期一会を大切に

占春会会長 河合 隼子

二十一世紀を数年後にひかえ、今の日本は、内外共に大海に浮かぶ小舟のように、混沌とした世想の中にあります。

「少年よ大志を抱け！」。クラーク博士の言葉はそれだけの立場で解釈されればよい。大学進学への門はやや開かれた思いがするが、卒業してそれから先は？、が問題である。「社会の受け入れ体制がない。就職も又然り、己れ自身の個性を発揮する所がない。」と言いきってしまうと暗い話ばかりになるが、今こそ進むべき道を問い質す時ではないだろうか。振り返ってみよう。地道な職を嫌っている事はないだろうか。焦りすぎてはいないだろうか？ まざまの事を省りみて、気付いた事を角度を変えて考えてみてはどうだろうか。纏れた糸がとけるように前が見えて来る事がある。

この私も今から五十年前、第二次大戦終結のあくる年に卒業。夢は一杯あり乍ら親の拘束（後日親の愛情であった

ことに気付く）もあり、思うようにならなかった。平凡に娘時代を過ぎ、商家の大家族の長男の嫁となり、何だか夢中に女ざかりを過ごしてきたように思う。只、言える事は、一期一会の人との出逢いが五十年間の私を育ててくれたことにすべてに感謝している。

どうぞ皆様も健康に留意して、前途洋々たる人生を送って戴きたいものと願って止みません。

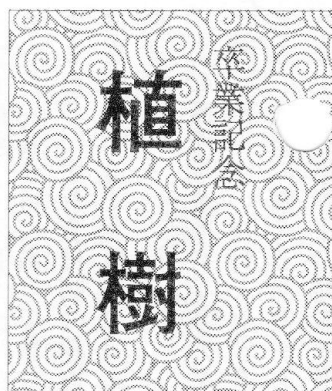
最後に、母校清友高校の益々の発展を願いつつ、皆様への挨拶と致します。

平成九年卒業式に列席して、三句

ど外れの三枚目いて山笑う

壇上に春一杯の大花瓶

卒業の答辞読む目につと涙



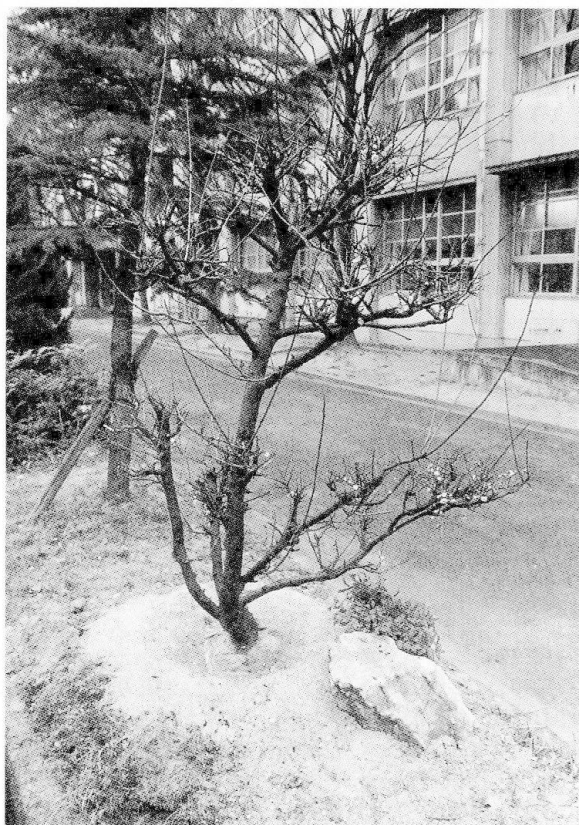
平成九年二月二十五日の卒業生へ贈る

“紅梅の植樹”

清友高校の校章は、「清冽な水の流れと、寒さに魁と咲く梅の花」がシンボルの校章であります。かつてこの千塚へ校舎が移転しました際、

占春会は中庭の一隅を借りて「占春の園」と名付け、毎年の卒業生へ梅の植樹を続けてきました。又、或る時は「憩の一下刻を」と藤棚を寄贈しました。その藤棚も枝を張り、夏には涼しい木陰を作っています。後輩達も食後の一刻を、ベンチに坐り、たのしく過しているようです。

五十周年記念事業として寄贈しました時計塔も、年を経る毎にどつしりと重みがついて参りました。それにつけても、学校全体からみれば梅の樹が少ないようです。今後とも毎年卒業生を祝って梅の植樹を続けて行く覚悟でいます。これを皆様にご報告致します。



「校長講話」



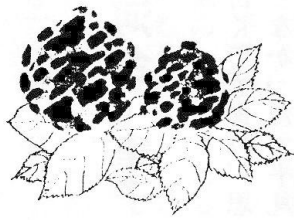
学校長 錦織 利治

「僕は鰻だ」と一人が言う
と、連れの男も「うん」とう
なずく。一般に鰻などの魚介
類のほか、狸・狐・まむしや
河童などもでてくるが、決し
て「僕（我輩）は猫だ」など
とは言わない。なぜなら、彼
らはいま食堂に入って、昼飯
を食べようとしているからだ
す。これは昔、大岡信氏があ
る雑誌にこれも立派な文章だ
と、必しもちゃんとした文
章になるとは限らないので
が、それにしても、近ごろの
女子高生達の会話は、端で聞
いているとサッパリ要領をえ
ない話が多いですね。

ろうと思つて、というよりも
そんなことさえ意識もしない
で語りかけている言葉に、生
徒はポカンとして、「先生の
今言われた〇〇とは何のこと
ですか」というような言葉が
返ってくることもある。今の
生徒は語彙が非常に少ないの
で、校長先生も話をされると
きは、できるだけ易しい言葉
で話さないよ、と忠告を受
けたことがあります。そして
その十日位後に、駅のエス
カレーターで女子高生が二人
話をしていて、一人が「ねえ、
さつき言つてた××て何のこ
と。私、難しい言葉を使われ
るとわからへんわ」と言った
が、相手の子は、それに答え
ず別の話題に移つてしまいま
したが、それを聞いていてこ
ちらが、「えっ、そんな言葉も
知らないの」とびっくりする
始末でした。

し、生徒は聞きっぱなしであ
れば、何の応答もないわけ
ですから、なんだか不安を通り
こしてむなしくなつてくる
というものです。

ところが、ところがです。
四月の始業式の前日、学校の
食堂で昼食を食べようと思
つてカレーライスを持つてテ
ブルにつくと、近くの生徒が
話しかけてくるではありません
か。「校長先生、明日はど
んな話をされるのですか」
「それは、秘密、明日のお楽
しみ」。そしたら、「終業式の
柱の話は感動しました」とき
ました。終業式で「八尾市の
新庁舎は、地上四十五メー
ルの十階建だが、その基礎に
は直径一・八メートル、長さ
が三十メートルの杭が八十八
本も打ち込まれています。君
達も将来立派な人間になるた
めには、今のうちにしっかりと
基礎を作つておいてほしい」
というような話をしました
が、やっぱり聞いてくれてる
んですね。うれしくなりまし
た。



ご挨拶



教 頭 米田 宏

新緑の候、占春会の皆様方
には、ますますご清栄のこと
とお慶び申し上げます。私儀
清友高校のために多大なご尽
力をなされました奥田義和先
生が、府立泉大津高校校長と
してご栄転され、その後任と
して着任いたしました。

現在、高校は、好む好まざ
るとに拘らず、変革という時
代の渦に巻き込まれていま
す。変革といえは、明るい面
へ目が向きますが、ものには、
光があれば影もあります。現
在、前任校では募集停止とい
うつらい憂き目にあつて参り
ました。いづれ全日制の課程
にも波及することは必至であ
ります。

つてからでは間に合いません。
また、学校を潰すに潰せ
ない学校にする必要がありま
す。すなわち、伝統を含め学
校としての特色を明確にし、
個性を重視し、入学してきた
生徒一人ひとりが、自分を活
かせる分野を見つけ、自己実
現を果すのに必要な生きる力
をつけて、希望と自信を持つ
て巣立つて行ける学校を目指
したいと思つております。

清友高校は、開学以来、幾
多の危機に見舞われたもの
の、占春会を始めとして、皆
様方の一致団結したご努力に
より危機を乗り越えられたと承
つております。非常に心強い
ものを感じております。私も
微力ながら努力させていただきます。

ある学校の同窓会長さんが
「住所は簡単に変えることが
できる。時には自分の名前さ
え変えようと思えば不可能で
ない。しかし、母校を変える
ことはできない。」と出身校
を大切に想う心を述べておら
れましたが、まさに至言だ
と思います。清友高校を卒業さ
れた方々の、母校を大切に想
われる心を胸に刻んで、大阪
に清友あり〃を目指して頑張
ります。何卒よろしくご支援
の程、お願い申し上げます。



母校たより

平成九年度教職員の異動

(敬称略)

□ 転出

奥田 義和先生 (教頭) 府立泉大津高校長へ

山本 裕先生 (国語) 今宮高校 (全)へ

松尾 省三先生 (国語) 八尾東高校へ

角 知子先生 (社会) 高津高校 (全)へ

山口 輝夫先生 (数学) 夕陽丘高校へ

八倉千佳子先生 (英語) 今宮高校 (全)へ

南場 光先生 (家庭) 茨田高校へ

□ 退職

棚橋 利光先生 (社会) 八尾市立民族歴史資料館館長へ

吉井 政典先生 (数学) 教育大平野校へ

藤岡 佐紀子先生 (養護) 佐紀子先生 (養護)

米田 宏先生 (教頭) 守口高校 (定) 教頭より

菫原 宏子先生 (国語) 阿倍野高校より

古閑 紀秋先生 (社会) 八尾東高校より

藪野 清先生 (数学) 八尾高校 (全)より

内貴 明子先生 (家庭) 羽曳野高校より
木村 正信先生 (英語) 羽曳野高校より
藤澤 路子先生 (養護) 山本高校より

藤岡佐紀子先生

「永い歲月ご苦労 さまでした!!」



ご健康を祈念 いたします!

先生は、母校清友へ養護教諭として赴任され、37年間の永きに亘り、生徒達の体調を見守って下さいました。怪我をした生徒、又、心のケアを先生に求めた生徒達も多かった、と聞き及んでおります。

数年間ですが、藪先生と共に占春会のお手伝いとして力を借りて致しました。

平成九年二月の卒業式には、生徒の答辞の中に藤岡先生への感謝の言葉のべておりました。卒業生(今は占春会員です)達の胸にいつまでも先生への思いは深くきざまれていくこととしましょう。

「停年後は静かに孫の世話でも致します。」と美しい笑顔でお答えでしたが、お若いお祖母様でお孫さんもしあわせでいらつしやいませ。どうぞお身体を大切になさいます。総会の折にはお元気なお顔を拝見させて下さい。

「占春会員のみなさま いつもありがとうございます」

柳生 和子 植木 功子

占春会員の皆様には恙なくお越しの御事とお慶び申し上げます。占春会員も今春府高十八回生を迎え、会員総勢一万五千三百余名(旧職員も含む)もの大家族に成長しまし

た。今年の総会報告にもあります様に、男子会員の出席もあり、府高一回生が三十六歳にまで成長し、いよいよ占春会も名実共に充実期への兆しが表れ、今後益々男子会員の

出席を見込める様になり、会員皆さまへの何よりの報告でござります。より逞しい行動力と思考力で占春会を指導して行つて下さる方々の息吹きが感じられ、今までになかったフレッシュなイメージです。より多くの方々が気軽に出席いただき、楽しい、有意義な総会となり、占春会が益々伸長して行ける様に祈つてやみませ

平成8年度 会計報告書 占春会

単位=円

収	入	支	出
前年度繰越金	10,098,832	26号会報政策費	554,534
入会金	1,543,500	〃 発送費	834,905
平成8年度卒 (343名)		不明者調査費用	73,284
雑収入	44,157	総会費	199,367
預金利息	21,094	会議費	25,680
		通信費	3,736
		慶弔費	10,000
		翌年度への繰越金	10,006,077
合計	11,707,583	合計	11,707,583

<翌年への繰越金の内容>

富士銀行東大阪支店	定期預金	4,801,948
〃	普通預金	7,578
大阪商工信用金庫 生野支店	定期預金	3,076,928
〃	普通預金	2,119,623
合計		10,006,077

以上の通り報告いたします。平成9年6月30日

和子 植木 柳生 功子 植木 小中 柳生 功子 植木 小中

☆上記会計報告について、厳正適正であったことを報告いたします。

今年から、「会報賛助金」のお願いや、「異動通知」の励行のお願いなど、引いては総て会計に大変恐縮です。が、会長初め役員一同が懸命に頑張つて、検討して決めたので、どうかよろしくご協力下さり、占春会が益々隆盛して行く様にご援助下さいませ。上は昨年度(平成八年度)の会計報告でござります。いつもご協力いただき心から感謝申し上げます。

五十三期生(府高十八回生) 晴れやかに巣立つ

今春卒業した五十三期生の大学進学者数は三十四名で、卒業生を含めた大学合格者は五十名を超えています。短大への合格者百二十名を加えると、大学・短大への合格率は昨年比で十ポイント

以上の伸びを示しました。就職でも、求人状況の厳しい中でよく健闘し、学校紹介による就職希望者はほぼ全員、社会人としてのスタートを切ることができ

総 会 報 告

[平成8年度]

平成八年十月二十日総会開催

場所は南地「暫」に於いて。

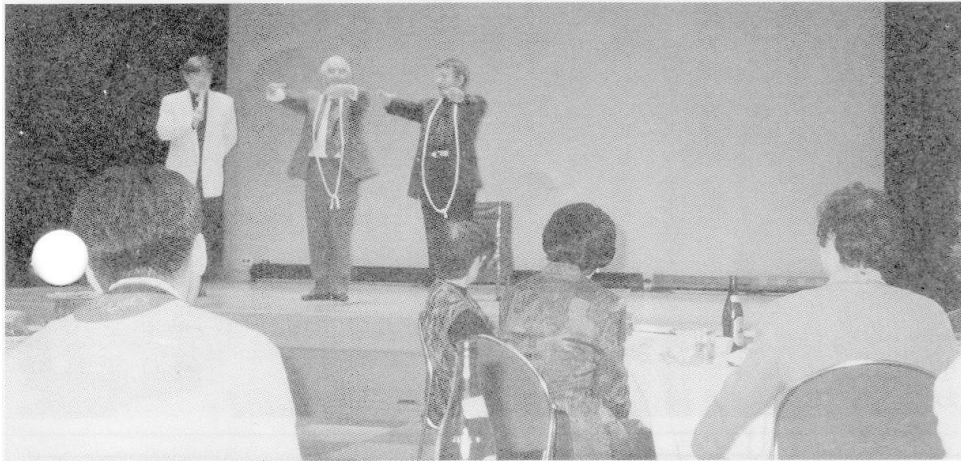
校長先生、教頭先生、篠先生、逸民先生のご出席を仰ぎ、一期生い組の方々を始め、若い年代の男子諸君も参加下さり、賑々しく共にたのしい時を得ました。

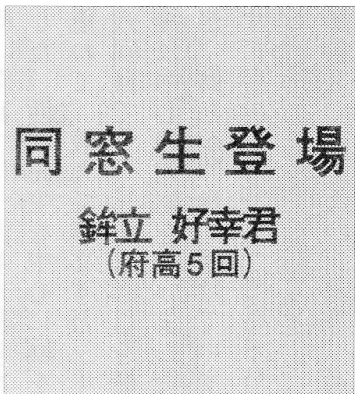
趣向の違ったのしい総会の感謝を述べ、有意義であった一日のご報告を致します。

司会は小寺康子（敬称略・以下同じ）、開会の辞・中野郁子、会計報告・植木功子、河合会長挨拶、二部開会の辞・中易敬子、料理は和洋折中の豪華バイキング。食べ切れない程の盛り澤山で、やがて各テーブル毎の紹介。又一つの出逢いがあり、嬉しさも一入倍増!!

イベントとして「モンタ&一億」が大熱演。校長先生までが舞台へ引張り出されて、マジックの講習を受けさせられ、私達は拍手喝采で大いに笑わせてくれました。

誠にこんな時の先輩・後輩共に縦横の深い絆はいいものです。あつという間に時間がすぎ、閉会の辞・辻野伶子が、





“こんな素晴らしい後輩がいる”

ある日、青年から電話がかかって来た。その青年は、総会の時に出席してくれた昭和五十九年、府高五回生卒の好幸君であった。

好幸君は、大阪府知事認定の「日本伝統工芸士」の賞を受けたとの事。その電話をもらって、数日後に平成九年二月二十五日に卒業式を控えていたので、是非、母校清友高校へ報告にきて欲しい旨を伝える。

卒業式当日、彼は応接室へ通されて校長先生を待っていた。次々と各中学校校長先生方、八尾市の教育委員の面々、考古学や郷土史で名高い吉岡哲先生等、来賓の皆々様の前で認定証と賞状を見て頂いた。



●占春会編集部では、会員数が今や、一万五千余名の会員を擁する大所帯となつて、益々発展する母校と占春会の会員のあれこれを占春会報の「コマ」に「同窓生登場」の欄で今後、旧職、正会員の中から本格的に紹介していきたいと思っておりますので、自薦・他薦を問わず、「推薦下さい」。

士)のきびしい修業のもと修業に打ち込み、十二年目にやつとその修業が稔り、大阪では最年少の漆塗り伝統工芸士の賞を得たわけである。地味な仕事の中に彼の涙と根性の結晶の賜物である。でも彼は言う。まだ入口ですと!!

好幸君おめでとう。

益々の活躍を願っております。

お願いします! 「同窓会賛助金」ご支援のお願い

占春会費は昭和49年卒業生以降より、入会金を4500円頂いております。しかし、全卒業生に毎年会報を送っておりますと、ここに行き詰りが生じてきます。

ここかねて、2年前からの「占春会報」7頁の賛助金の欄で、予め会員の皆様に予告として検討、お願い申し上げていましたように、占春会の通常事業に要する経費に加え、毎年会員の増加と共に会報の経費を始め、出費が増加しており、単年度の経費も増えております。その為、その解消する方法を役員会で度重ねて検討していましたが、良策も見当たらず、止むなく会員のみな様にご協力を仰ぐことに決定しましたので何卒よろしくご支援下さいませ。会員皆さまには少額ずつで結構です。全員が集まれば、少額ずつが大金となるものです。

他校にも問い合わせる等、調べも致しまして、平成9年度より同窓会賛助金として一口1000円以上のご協力をお願い申し上げます。

同封の赤い振込用紙をご利用の上、最寄りの郵便局からお振込みの是非是非のご協力をお願い致します。少数の限られた方たちにいつもご協力いただくよりは、全員が節約して少額ずつを無理なくお送り下さい。大きなお金や無理な賛助金は占春会では希望いたしません。毎年永く会員の皆様にご協力いただきたく思っていますので、ご協力いただきたい金額を低くし、日常生活の中で節約していただいた500円、1000円を占春会の為にご送金下さいませ。赤い振替用紙ですので、手数料は、占春会が支払いますのでご協力いた

だけの金額をそのまま金額欄に記入して下さい、郵便局の窓口にご持参下さればOKです。郵便局窓口で、その証となる受取書を交付してくれます。

尚占春会では、日本国内どこでも、お気軽に送金いただく為、お手軽で振込手数料が少なく、全国どこからでも振込み出来る郵便局の振替口座を設け、最寄りのどの郵便局の窓口からでもご送金いただける様に、また住所変更や異動通知がなされやすい様に振替用紙にみな様が占春会にお届出のご住所をコンピューターで打ち出し、ご点検をかねて、もし住所が変更している時やまちがっている時は振替用紙に直接ご訂正(鑑を押して下さい) いただいて送金いただける様にいたしました。そして、みな様が振替用紙にご記入いただく手間も省ける様にと、今までのみなさまのご提案、ご要望を出来るだけ反映してみました。なおお振込みいただいた郵便局の受取書は大切に保管下さい。お振込みの領収書になります。

また、お振込みいただいて7~10日間(約1週間) くらいの処理期間を経て占春会に入金報告されます。

この「同窓会賛助金」にご賛助下さった方々の卒業回期とご氏名(金額等は勿論不掲載です)を次号に掲載の予定でありますのでどうかよろしく予めご了承下さいませ。上、ご無理なお願いにて恐縮ながら、少額ずつを、全員の会員の皆様が、末永くご協力いただきたく、切にお願い申し上げます。(占春会)



各期だより

一期生ろ組

クラス会

一期生ろ組 田中 光子

松谷 照子

アメリカから帰郷される五井さんの御都合に合わせて、平成九年四月九日、宗右衛門町「菱富」に十四名が集りました。西沢先生を中心に回を重ねて、数えてみますと二十八回目です。三十五回目を最後に中心の先生を失いましたが、何とか仲良く続けていきます。お茶、お花のお師匠さん。お習字の先生。袋物の先生。御病気の御主人の介護等。過



去三十七回の記録写真に目を走らせ乍ら、ワイワイ、ガヤガヤ、取り止めないお話にストレスを発散させました。欠席の方は膝、腰等、そこ、かしこ、体の不調を訴えられる方、年老いた親御さんの介護、お孫さんのお守り等理由はお有りでしたが、来年の御出席をお願いしておきました。次の回の幹事もすんなり決まり、再会を約束して、家路につきました。

『樋口先生の校長就任を祝して、二十四年ぶりの再会と五年ぶりの再会』

市高十七回生（三年C組）林 久恵

一昨年春より、樋口先生は、府立長吉高校の校長として、赴任されました。りませんが、また是非参加したいと思えます。

六年前、教頭になられたのを期に十七回生・三年C組の同窓会を開きました。今回は、一年生の時の担任であった、一年E組の同窓生にも声をかけ、合同で同窓会を開くことになりました。何か残る物と思いついて、私達も負けずに、お祝いの言葉と近況報告をかねてメッセージ集を作りました。

先生の御挨拶のお言葉の中で、『姿は変われど、文字は変わらぬ』と言われた様に、がんばって作って良かったと思っております。

当日、急にこれらなくなつた人もありますが、樋口先生御夫妻を含めて、大人三十二名、小人五名が、「百薬上六店」の座敷に集まったのですから（H8・10・27）、もう帰りは声がかれてしまいました。あつという間に四時間近い時が流れました。

今後は何年後になるかわか



樋口先生の校長就任をお祝いし、清水高校17期生IEC3C合同同窓会、メッセージ集



偲び草

(原文紹介)

拝啓

さわやかな秋を迎え、皆様方にはお変わり無くお過ごしのことと、お喜び申し上げます。

さて過日は、「占春会報」をご送付戴き、有り難うございました。

つきましては、誠に残念なご報告となりますが、妻・裕子(市高五回)におきましては、病氣療養中の去る、七月六日七日に逝去致しました。

その節には、同窓生はじめ皆様方には大変ご心配、お心遣いを賜り、厚く御礼申し上げます。

ここに、生前のご交誼に対し深く感謝申し上げますとともに、辻野様はじめ、「占春会」ご一同様の、今後益々のご繁栄を祈念し、未筆でございますが、ご報告に換えさせていただきます。

大変お世話になったことと存じますが、改めて御礼申し上げます。

敬具

平成八年十月四日
柏原市法善寺三八三

中原教允

会員の皆様へお願い

総会へ、会員皆様がより多数、より楽しく、より有意義に出席下さる為の色々なご意見やアイデアをどしどしご寄稿下さい。

また、役員会では、出来る限り、みな様にたのしく有意義な時間を持つていただけるよう嗜好を考え、努力して行くつもりで頑張っています。是非ともお気軽に、お誘い合わせてご出席下さる様お待ちしております。

また、今回は男子会員のご出席をいただき、非常に嬉しく存じます。特に男子会員、若い会員の皆様も誘ってご参加下さい。お待ち申し上げます。

現在、会員の二〇%強が不明者です。また、毎年、会報発送毎に大量の不明者が発生する有様です。皆様には、異動通知をご励行下さると共に、不明者の情報のご提供にご協力下さい。

(占春会)

「異動通知に添えてのひと言」紹介

■市高13回卒 諸岡 豊美さん

朝夕めっきり涼しくなり、過ごしやすい季節となりました。占春会役員の皆様には、日頃ご尽力下さいます感謝申し上げます。会報が届き、なつかしく拝読しました。在校時、教えて下さった逸民、藪両先生が定年退職とは、時の流れの早さを感じております。

■市高10回卒 丹羽真知子さん

いつも占春会の為に御骨折り戴きまして、誠に有難うございます。御陰様で懐しく拝見させて頂いております。

■府高8回卒 吉沢みどりさん

占春会の業務ご苦勞様です。そしてありがとうございます。いつも会報が届くと楽しく読んでいます。清友へ行く事もない今は、唯一の情報誌となっております。今後共よろしくお願ひ致します。

■府高、志林 和代さん

占春会報が届くといつも懐しい思いでいっぱいになります。逸民先生が定年退職されたんですね！テニス部だった

私は、毎日背中あわせで真黒になって練習したソフトボール部との思い出が、沢山あります。いつも会報が届くことを楽しみにしています。これからも頑張ってください。



役員会からの お願い

占春会役員の仕事の「異動通知」の呼びかけも虚しく、毎年沢山の方々が不明者となつて、名簿原簿から住所を抹消せざるを得ない状況が毎年続いていきます。「これだけしつこく」、「これだけ度重ね」、「これだけ毎年会報のあちこちに」、「これだけわざとらしく、にぎやかに」、紙面に「絶叫のお願い」の声を、皆様に届けとばかりにお願いしているにも拘らず、毎年、会員数の四〇五パーセント近くが不明者となり、山となつて返戻されて来ます。これを見る時、「去年は届いて会報を見て下さっているのに」と溜息は通り越し、限りなく空しい気持ちや淋しさが襲つて来て、落ちこんでしまいます。去年まで、従来、回期代表を通じてこれらの不明者を知り、調査をお願いしていましたが、書記の辻野伶子

さんに届けられる判明者の報告は僅少で、とても追いつかなく、回期代表によつては、本人自身が不明者になつてくる者もあり、また、「ゼロ報告」すらも届けられないものが相当数あります。その為、会長的一声で一部の役員が必死に不明者の調査をして補足している有様です。これでは、とても、折角、会長を初めてする役員、占春会のトップの声の反映・会員の意思疎通と絆がなくなつて行く事となり、占春会の会則に唱う趣意を失ふことになり、その為、不明者追求に莫大な経費と労力を要する事となり、すので、皆様が日頃、地味な「異動通知」の励行を心掛けて下されば、最少限で不明者発生が喰ひ止められるものです。致し方なき事情やケースがあり、私達の日常生活には、当然転居や結婚、物故、転職などの異動は止むを得ないものですが、占春会にもハガキ一枚、電話やFAXでもかまいません、必ず異動通知を一本お出し下さいませ。毎年、「今年こそは不明者の率が少なくなつていくだろう」と念願し、可よりも一番にそれに大きな期待を寄せ

ている占春会役員として、毎年変らない、多すぎる不明者に接する時、「皆様は会報を読んで下さっているのだからか」「悲痛なお願いをどこまで会員の立場として受け止めてくれるのだろうか」と淋しさを一杯です。自然は巡り、今年も会報発送の時期になりました。そこで今年もまた、同じお願いの繰り返しで恐縮ですが、あえて言わせて下さい。しかも大きい文字で載せさせて下さい。

会員みな様が、転居・転職・結婚・物故など、その身上に異動が生じた時は、必ず占春会事務局（一面に住所・電話・FAXを記載していただきます）まで異動通知をお出し下さい。

(占春会)

また他方では、会報をお受取り下さった会員の方々から嬉しいお手紙や、また異動通知をお出し下さった方々からも、お手紙の一隅にうれしい一言を添えて下さり、とても慰められます。大阪を離れ、遠方から遥か「清友」を懐しんで下さる方、年一度の会報

を心待ちにしている方、友人や先生のニュースに在学時に思いを馳せる方、私共事務局の者にまで労いの言葉を添え送り下さる方など多くのものがあり、大変嬉しく思っています。今年は、些少の示例ですが、沢山の異動通知の中より二、三を抜粋し、早速当会報（七頁）に掲載させていただきます。

また、今、河合会長様が私案の段階との事ですが、返信ハガキなどを同封し、近況をお寄せ下さる方があれば、それらも「みなさまの声」「みなさまからの便り」なるページを設けて紹介したく、経費と紙数の関係もあり、計画の段階ですが、各々の卒回順で抜粋し、懐かしい声を少量ずつ、多くの方々の声を反映させて行きたい案（計画）を考察中ですので、学年便りや同窓会など懇親会だよりと併せて、良い紙面への一助として、よい喜ばれるものへと邁進して行きたいと役員一同考えていますので、いつもお願いばかりで恐縮ながら何卒ご協力下さいます様お願い申し上げます。

(占春会役員一同)

編集後記

■転居、ご結婚、就職された方。又、友人知人のご転居をご存知の方。名簿係（書記）の辻野までご連絡下さい。皆様のご協力を得て、良い名簿にしたいと思います。

連絡先
〒581八尾市南本町5-3-11
辻野伶子（宛）

■会報27号（本年平成九年発行）にお願いの「同窓会賛助金」をお振込下さった方のご氏名は、会報28号（来年平成十年発行）の会報に、卒業年度、ご氏名を領収書代りに掲載致します。何卒ご協力下さると共に予めご了承下さい。

■会報を読まれて感じたこと、良いアイデア等ご教示下さい。

■学年便り、クラス会便り、どしどしお送り下さい。その時の写真なども同封下されば楽しい紙面が出来ますし、大変有難く思います。各部会への呼びかけ等にも会報をご利用下さい。みな様方の連絡の広場としてご利用下されば幸甚でございます。（占春会）

